

# 波の運動に伴う砂の移動限界水深の数表

堀川 清 司\* 佐々木 民 雄\*\*

## 1 概 説

海洋開発がマスコミをにぎわしている今日であるが、海洋、海岸および港湾構造物の設計上、あるいは海岸過程を問題とする際、波による海底底質の移動限界水深が問題となることが多い。

移動限界水深を求める試みは、佐藤・岸 (1952)、栗原・篠原ら (1956)、石原・榎木 (1960)、佐藤・田中 (1962)、野田・井保 (1964)、榎木 (1966)、野田 (1966) および堀川・渡辺<sup>1)</sup> らによってなされてきたが、堀川・渡辺以外の諸式はいずれも層流境界層を仮定し、また定常流の抵抗法則を用いているのに対し、堀川・渡辺は振動流れにおける抵抗法則に関する梶浦の理論的研究<sup>2),3)</sup> に示唆を与えられ、底面の粗滑や層流と乱流の範囲なども考慮し、移動限界水深を統一的に説明した。

しかしながら、設計や実験に際して堀川・渡辺の式を使って移動限界水深を求めるには、はなはだ面倒な計算をしなければならない。本報告は現場で、あるいは実験室等で初期および全面移動限界水深を求めたい場合、底質の粒径、波の周期および深海波高から、各移動限界水深を直ちに求められるように IBM System 360 を用いて計算した数表を提供するものである。

## 2. プログラムの概要

堀川・渡辺<sup>1)</sup> は全面 および 初期移動限界水深 に対して、おのおの「層流および滑面・乱流」および「粗面・乱流」の2枚の図によって実験式を表示している。ここで、全面移動とは海底の表面の第一層のほとんどすべての粒子が動き出す状態であり、初期移動とは海底の表面の比較的突出した粒子がいくつか動き出す状態である。

ここで、著者らはこの実験式をそれぞれ2本の回帰曲線で近似し、回帰係数を求めた。

層流および滑面・乱流の場合の回帰式を式 (1) に示す。

$$sgd \tan \varphi / \hat{u}_0^2 = B(\hat{u}_0 \delta / \nu)^A \dots\dots\dots (1)$$

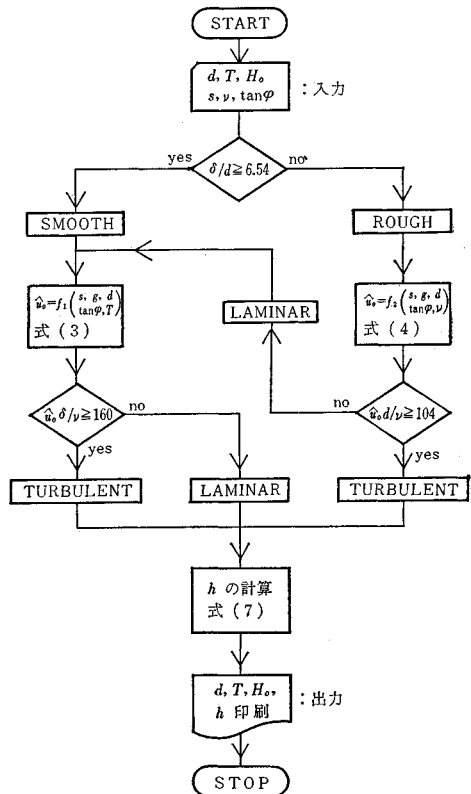
\* 正会員 工博 東京大学教授 工学部 土木工学科  
 \*\* 正会員 東京大学研究員, (株) I.N.A. 新土木研究所

ここに、 $S$ : 砂の水に対する相対比重、 $g$ : 重力の加速度、 $d$ : 砂の粒径、 $\varphi$ : 砂の水中安息角、 $\hat{u}_0$ : 底面近くの水平方向流速の振幅、 $\delta = (2\nu/\sigma)^{1/2}$ : 層流境界層の

表-1 回帰係数の値

区分	底面および境界層の状態	-A	10 <sup>B</sup>	備 考
全面移動	層 流	1.000 00	1.074 87	$\hat{u}_0 \delta / \nu \leq 160$
	滑面・乱流	0.735 61	0.507 87	$\hat{u}_0 \delta / \nu > 160$
		0.529 78	0.322 22	$\hat{u}_0 / \sigma d \leq 60$
	粗面・乱流	0.447 34	0.175 64	$\hat{u}_0 / \sigma d > 60$
初期移動	層 流	1.000 00	1.233 31	$\hat{u}_0 \delta / \nu \leq 160$
	滑面・乱流	0.818 49	0.853 27	$\hat{u}_0 \delta / \nu > 160$
		0.451 73	0.254 60	$\hat{u}_0 / \sigma d \leq 400$
	粗面・乱流	0.352 90	-0.0025 53	$\hat{u}_0 / \sigma d > 400$

図-1 移動限界水深計算のフローチャート











西村仁嗣氏、回帰式の作成については同大学院博士課程渡辺 晃氏、および IBM サイエнтиフィック データセンターの利用については(株)I.N.A. 新土木研究所代表取締役高居富一氏に数々のご援助をいただいた。ここに記して謝意を表する次第である。

参 考 文 献

- 1) 堀川清司・渡辺 晃：波による砂移動に関する一考察，第 13 回海岸工学講演会講演集，1966.
- 2) Kajiura, K. : On the bottom friction in an oscillatory current, Bull. Earthq. Res. Inst., Vol. 42, No. 1, 1964.

- 3) Kajiura, K. : On the bottom frictional stress in a turbulent oscillatory flow, Recent Studies on Tsunami Run-up, U.S.-Japan Cooperative Scientific Research, April, 1965.
- 4) 相模川河口調査委員会：昭和 44 年度相模川河口調査報告書，土木学会，1970.
- 5) (株)I.N.A. 新土木研究所：昭和 44 年度新潟海岸養浜模型実験報告書，1970.
- 6) 佐藤昭二：漂砂，1966 年度水工学に関する夏期研修会講義集，土木学会，1966.
- 7) 土木学会海岸工学委員会：海岸保全施設設計便覧，改訂版，1969

(1970.1.28・受付)

第 16 回 海岸工学講演会講演集頒布

第 16 回海岸工学講演会は 44 年 12 月 11~12 日の両日大阪市において行なわれます。今回の講演発表数は 56 編を数え、これらを収録した講演集は 380 ページを越えるものとなりました。本講演集ご希望の方は土木学会へお申込み下さい。

体 裁：B 5 判 8 ポ 2 段活版印刷 384 ページ

定 価：3 000 円

送 料：150 円

橋

1967-1968

A 4 判カラー  
入り・特上製  
8 2 ページ

1500 円  
(〒 150 円)

■本州四国連絡橋技術調査報告書の概要■福島第 1 高架橋■名護屋大橋■鋼橋 1967 年の展望・箱ヶ瀬橋/舞鶴跨線橋/瀬詰大橋/谷町インターチェンジ/竜頭の橋/水道道路架道橋/狭間第 6 架道橋/越ヶ谷架道橋およびハッ道越ヶ谷架道橋/姥久保橋/大天橋■コンクリート橋 1967 年の展望・想影橋/大呼戸沢橋梁/みなと大橋/有田川橋梁/瀬田川橋梁/小高瀬高架橋■1967 年竣工主要橋梁一覧■Response of Suspension Bridge to Moving Vehicles.

土木学会田中賞設立を記念して刊行されたユニークな橋の年報

橋

1968-1969

A 4 判カラー  
入り・特上製  
9 6 ページ

1600 円  
(〒 150 円)

■東名高速道路の橋梁■尾道大橋■浜名湖橋■第 3 級瀬高架橋■鋼橋 1968 年の展望・多摩川橋梁/無意根大橋/荒川・中川橋梁/新桂川橋梁/第一江戸川橋梁/新石狩大橋/安芸大橋/新瀬戸橋/飯田橋歩道橋/川崎ターミナル歩道橋/横浜駅東口歩道橋/新伊東線・熱海駅地下道架道橋/福島仮設架道橋■コンクリート橋 1968 年の展望・矢作川橋梁/荒川 PC 下路鉄道橋/荒川東高架橋/地震滝橋■1968 年竣工主要橋梁一覧■長大吊橋の地震応答と耐震設計法に関する研究

東名高速道路建設誌

11 500 円 45 年 6 月刊行 B 5 上製 1024 ページ  
(口絵カラーとも 48 ページ・付図入り)

〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会刊行物頒布係 振替 東京 16828 番 電話 351-4131